

生研第29017号

平成29年5月31日

校長・准校長 様

生物科・理科 様

大阪府高等学校生物教育研究会

会長 寺岡 正裕

平成29年度大阪府高等学校生物教育研究会
第1回講演会について（案内及び依頼）

若葉青葉の候、貴校ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。また、日頃は本研究会の活動に特別のご高配をいただき、厚く御礼申し上げます。

さて、平成29年度の生物教育研究会の第1回講演会を下記のとおり開催いたします。

『生物としてのヒトを考える：類人猿を通して学ぶヒトの心の進化的基盤』と題して、京都大学野生動物研究センター教授 熊本サンクチュアリ所長 平田 聡 先生に講演をしていただきます。この講演は昨夏、日本生物教育会熊本大会における記念講演で非常に好評を得た内容でぜひとも大阪の先生方に聞いていただきたいと企画したものです。

つきましては、校務多忙のこととは存じますが、理科担当教員のご出席について、ご配慮いただきますようお願いいたします。

記

1. 日時： 平成29年6月23日（金） 午後3時00分～5時00分
2. 場所： 大阪府立大手前高等学校 生物講義室
大阪府中央区大手前 2-1-11
3. 内容： 講師：京都大学野生動物センター教授 熊本サンクチュアリ所長
平田 聡 先生
演題：『生物としてのヒトを考える：
類人猿を通して学ぶヒトの心の進化的基盤』
(次ページに講師略歴、講演要旨掲載)

〈連絡先〉

大阪府高等学校生物教育研究会事務局

大阪府立枚方なぎさ高等学校生物科

岡本 元達

TEL: 072-847-1001 FAX: 072-847-0440

E-mail seiken@hirakatanagisa.osaka-c.ed.jp

講演要旨

○講師

京都大学野生動物センター熊本サンクチュアリ所長

平田 聡 教授

○講師プロフィール

1973 年生まれ、広島県出身。1996 年京都大学理学部卒業、2001 年京都大学大学院理学研究科(生物科学専攻)博士後期課程修了、博士(理学)。2001 年日本学術振興会特別研究員、2002 年林原生物化学研究所類人猿研究センター主任研究員、2008 年主席研究員、2011 年京都大学霊長類研究所特定准教授をへて、2013 年 9 月より京都大学野生動物研究センター教授、2015 年京都大学野生動物研究センター熊本サンクチュアリ所長。専門は霊長類学、比較認知科学。ヒトとチンパンジーの比較を通して社会的知性の起源を研究している。日本霊長類学会高島賞、日本心理学会国際賞、日本学術振興会賞、日本学士院学術奨励賞を受賞。

(岩波科学ライブラリー214『仲間とかかわる心の進化—チンパンジーの社会的知性』より)

○講演テーマ・要旨

『生物としてのヒトを考える：類人猿を通して学ぶヒトの心の進化的基盤』

チンパンジーとボノボはヒトに最も近縁な生き物です。彼らにとって知るということで、人間の本性の進化的基盤の理解が可能になります。人間はどこから来て、どうやって今の人間になったのでしょうか。その答えを探る研究として、考古学がその代表的例です。地中に残された化石を発掘することを通して、人類進化の道筋をたどります。ただ、骨や体の一部は化石として残りますが、心や行動は化石にはなりません。化石を調べても、大昔の人類がどんな行動をして、何を考えていたのかは、わからないのです。人間の心の進化の道筋をたどろうとする「比較認知科学」では、現生の動物の「心」を調べることを通して、人間の心の進化的基盤を明らかにしようとしています。人間に最も近縁なチンパンジーやボノボの心を探ることは、人間の心を知るうえで重要な鍵を握ります。人間の心が他の動物と比べて真に独特なところ、そして他の動物種とも似ている共通の基盤を明らかにしてくれるからです。チンパンジーの騙し合い、協力、道具使用行動と社会的学習、そしてチンパンジーとボノボの違いなど、これまで彼らを対象にした研究で明らかになったことを紹介しながら、生物としてのヒトとヒトの心の進化的基盤について考えたいと思います。